

斐川地域農業基本構想

《斐川の農業・農村を守り、育み、伸ばす！》

「一町一農場構想」を追求し、地域が一体となって農業・農村・環境を守る！
 スマート農業技術や新たな支援組織により、全国に先駆ける農業を目指す！
 大規模経営体、集落営農組織、園芸農家、畜産農家などそれぞれの強みを引き出し所得を向上する！

(計画目標年：令和14年(2032))

☆ 重点項目

- ① 技術革新(イノベーション)による生産性向上と大規模省力化、コスト削減
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産体系の確立(100%循環、脱炭素、有機農業)
- ③ 高所得農業経営体の育成(他産業を上回る所得を確保)
- ④ 人材(後継者)の育成
- ⑤ 新たな支援組織による農業支援サービス提供
- ⑥ 集落営農組織の発展
- ⑦ 高収益作物集積団地(露地、施設)の創設
- ⑧ 売り先起点のものづくり(輸出も視野に入れた販売戦略)

☆ 目標とする数値

- ① 農業産出額 40億円超(2割アップ)
- ② 農産物の総生産コスト 2割削減(米は4割削減)
- ③ 環境負荷軽減農業 地域の1/2以上の面積で実施
- ④ 農業収入額 1億円超 10経営体以上
- ⑤ 効回地整備 露地野菜10ha(複数か所) リーダー 2ha(複数か所)

【ものづくり】

技術革新とコスト低減による所得向上

- 効率化の推進
 - ◇ 農地集約による大区画化 ◇ 大規模作物団地の形成 ◇ デジタル化(農業DX)の推進 ◇ スマート農業の活用、普及
- 農業ブレイクインクの推進
 - ◇ 高付加価値化への取組強化 ◇ 米以外の品目による1億円を超える産品の創出 ◇ GAP 認証農産物の拡大
- 栽培環境リカバリーの低減
 - ◇ 環境に配慮した農業生産の実践 ◇ 気候変動に対応した農業生産の実践 ◇ 鳥獣被害リカバリーの低減
- 生産コストの低減
 - ◇ 一町一農場構想の追求 ◇ リース施設整備による初期投資軽減 ◇ 徹底的な生産コスト低減技術の実証、普及
 - ◇ 堆肥利用による輸入資材からの転換 ◇ 新たな技術実証、普及

【しくみづくり】

新たな支援体制の構築

- 新たな農業支援組織設立による支援サービスの提供
 - ◇ 作業受委託幹旋(スマート農機等) ◇ 機械供給 ◇ 人材供給、育成(オペレーター養成) ◇ 人材バンク、農福連携
 - ◇ 経理代行 ◇ 集落営農組織連携支援
- リーダーの団地、園芸団地整備
 - ◇ 新たな担い手の育成 ◇ 新規就農の受入れ ◇ 新規就農者初期投資の軽減 ◇ 産地の拠点づくり
 - ◇ 効率的な営農指導
- 農業による地域づくり
 - ◇ 農村コミュニティの維持 ◇ 農業への理解の醸成 ◇ 担い手を支えるしくみづくり(除草、用排水管理)
 - ◇ 「花のまち斐川」による地域づくり

【ひとづくり】

それぞれの強みを引き出す

- 高所得経営体の育成
 - ◇ 土地利用型農家(経営意識を持つ後継者育成、雇用労働力の確保、雇用環境の整備)
 - ◇ 園芸、畜産等個人農家(経営意識を持つ後継者育成、法人化、経営品目の選定、雇用労働力の確保)
- 新しい集落営農組織の構築
 - ◇ 経営発展型集落営農組織(経営発展に向けた戦略検討と経営品目の選定、経営意識の優れた後継者育成)
 - ◇ 農地維持型集落営農組織(組織のあり方の検討、支援組織によるサービス提供、広域連携等の検討)
- 新規就農者の確保
 - ◇ 独立自営就農(相談支援体制の拡充、就農リーダーの確立、定年帰農者や女性就農者の確保)
 - ◇ 雇用就農(支援組織による人材育成、求人とのマッチング、定年帰農者や女性就農者の確保)

【あきないづくり】

販売力強化による所得向上

- 新市場開拓
 - ◇ 販売部門との情報連携、収集 ◇ 物流体制の整備 ◇ 販売活動の強化 ◇ 消費の掘り起こし ◇ 産地地消の推進
- 輸出への挑戦
 - ◇ ネットの活用、連携 ◇ 中介業者との連携 ◇ 空港、港湾の活用 ◇ インターネット販売
- 直売所の創設・活用
 - ◇ ネットでの直売組織の創設 ◇ 斐川らしさのある品目(斐川ブランド)の販売(こだわり農家のこだわり産品)
 - ◇ 産地地消、観光客向けの直売所設立
- 加工販売の推進
 - ◇ 野菜、米粉、パンなど加工販売による農家所得の向上 ◇ 機能性を有した品目による新製品の開発
 - ◇ 食品企業との提携、誘致

基盤整備

- ほ場の大区画化
- 暗渠排水等の整備
- 農業用水の確保